

多胡碑記念館 令和7年度 春の展示

かな い ざわ ひ

金井沢碑の

思い出

—文、絵、写真でたどる記憶—



(右致於=町井吉) 碑之澤井金一之碑三野上

金井沢碑絵葉書 明治～大正時代か。
高崎市立中央図書館蔵

2025

5.3 (土) - 7.6 (日)

開館時間 9:30～17:00

(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(ただし5/5は開館し
5/7は臨時休館)

観覧料 無料(上野三碑のユネスコ「世
界の記憶」登録を記念して
2026年3月31日まで)

多胡碑記念館

〒370-2107 群馬県高崎市吉井町池1085
電話 027-387-4928 FAX 027-387-8726

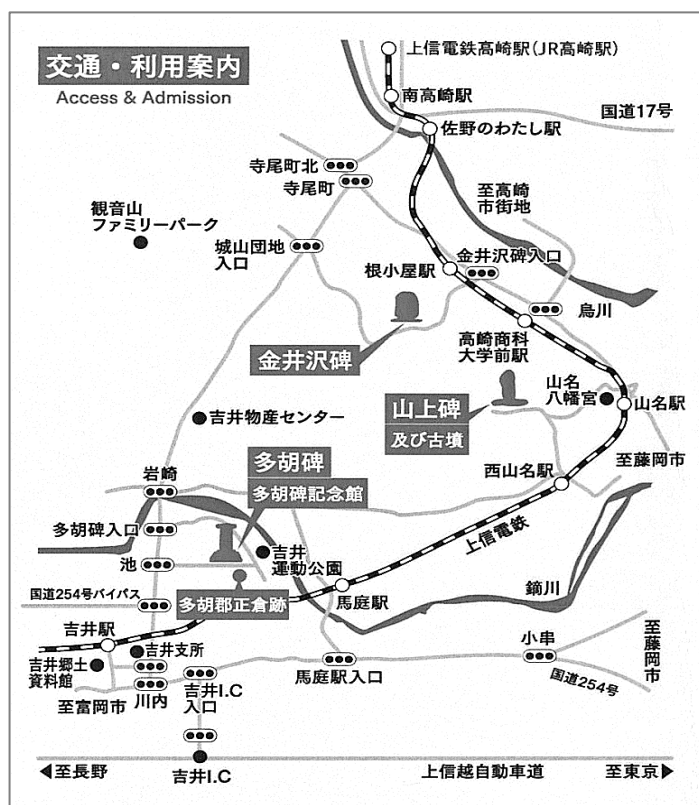


◎高崎駅から車で約15分

◎上信電鉄吉井駅から車で約5分
徒歩で約30分

上野三碑めぐりバスで約10分

◎上信越自動車道 吉井I.Cから車で約7分



金井沢碑の思い出

一文、絵、写真でたどる記憶—

高崎市に所在する特別史跡金井沢碑は、碑文に刻まれた「神龜三年丙寅」（726 年）の建立から、2026 年（令和 8）2 月に 1300 年を迎えます。

金井沢碑は、ユネスコ「世界の記憶」上野三碑（山^{こうざけさんび}上^{やまのうえ}碑・多胡碑・金井沢碑、いずれも特別史跡）の一つです。三家氏^{みやけ}を名乗る豪族らにより、先祖の供養とともに仏教による一族の結束を表すために建てられました。元々の建碑場所は不明ですが、江戸時代中頃に発見されたと言われています。

今回の展示では、江戸時代から大正時代の金井沢碑の様子を伝える文章や絵、写真などのうち、主なものをご紹介します。昭和時代以降は、金井沢碑をめぐる出来事を、写真を通して振り返ります。また、多胡碑に比べて目にする機会が少ない金井沢碑の拓本も展示します。

今回の展示が、みなさまと金井沢碑との思い出を紐解く契機となり、それらの記憶が次世代へと伝えられていくことを願うものです。

文字で読む



多胡碑記拓本（当館蔵）
細川潤次郎撰・日下部鳴鶴書
・藤澤群黄刻
1879 年（明治 12）の上碑三碑
の様子を伝える。

（線部）次に金井沢に至るに、
たる林葬ありて、手棘刺の傷る所と為り、古を好む
こと予の如き者と雖も、数 倦みて返思あり。

絵で見る



中村不折『不折画集 第一』1910-1911（個人蔵）1908 年（明治 41）に新聞に掲載された。

写真で見る



1985 年（昭和 60）頃の金井沢碑覆屋写真
（高崎市教育委員会蔵）斬新なデザインが目を
引く覆屋。この後、現在の覆屋に改築された。

拓本で見る



金井沢碑拓本
（当館蔵）
1950 年（昭和 25）に
旧吉井中学校の生徒
により採拓された。

記憶、その先へ—。金井沢碑 1300 年